

平成28年度小豆島オリーブ検定(ビギナー検定)東京会場 正解表

設問	正解	テキスト記載P	備考	設問	正解	テキスト記載P	備考	設問	正解	テキスト記載P	備考
問1	3	P54	オリーブ栽培の起源には諸説あるが、約6,000年前に小アジア地方で始まったというのが現在の定説になっている	問18	4	P30	オリーブ樹はモクセイ科オリーブ属に属する常緑樹である	問35	1	P56～59	②スペイン ③ギリシャ ④スペイン
問2	2		最初に地中海沿岸へオリーブを広めたのは通商・航海術に長けたフェニキア人であり、その後ギリシャ・ローマ人が栽培を広めた	問19	4	P31	開花期間は約一週間と短い。蜜はなく、多量の花粉を風で飛ばす風媒花である	問36	2	P59,66	カラマタの用途は油用もしくはテーブルオリーブ用で、色が変わりにくいため主にギリシア式のブラックオリーブ用に栽培される品種である
問3	3		日本に初めてオリーブオイルが持ち込まれたのは、約400年前の安土桃山時代である。当時、キリスト教伝道のため来日したフランシスコ派ポルトガル人神父が携えてきたと言われている	問20	1	P31.32	収穫量を上げるために受粉樹として異なる品種をある程度混植しているケースが多い	問37	4	P30	オリーブ樹の樹齢は極めて長い
問4	3	P8	日本に初めてオリーブオイルが持ち込まれたのは、約400年前の安土桃山時代である。当時、キリスト教伝道のため来日したフランシスコ派ポルトガル人神父が携えてきたと言われている	問21	2	P31	密生した毛茸で銀白色になっている	問38	4	P56	FAO(国連食糧農業機関)では約1200種類認識されている
問5	1	P9	日本へのオリーブの伝来は文久2年及び慶応3年に、幕府医学所薬物園と横須賀に植えたのが最初とされている	問22	4		5月下旬～6月上旬にかけて開花する	問39	2	P38,39	①栽培開始時からわずか2年後にはその存在が確認されている ③成虫の生存期間は3～4年間 ④存在が確認された当時は象鼻虫(ゾウビチュウ)と呼んでおり、オリーブアアキソウムシという名称で呼ばれるようになったのは昭和24年からである
問6	4	P10	明治7年、博覧会の副総裁佐野常民がイタリアからオリーブ数十株を持ち帰り、東京と和歌山に植樹。東京の苗木は枯れたが、和歌山に植えられた苗木は順調に育ち、実を結んだ。これが日本で初めて実ったオリーブとなったが、その後台風や害虫の被害を受け、全て枯れてしまった	問23	3	P34	オリーブは乾燥を好む植物とされているが、適度な灌水が必要	問40	2		幹や太い枝に4月～8月にかけて、葉・果実にかからないように年3回までに抑え散布する
問7	4	P11	農商務省直轄であった神戸オリーブ園において、福羽隼人による管理が好成績を収め、明治15年に日本で初めてオリーブオイルの採取及びテーブルオリーブ加工が行われた	問24	4	P35	日照量が多いほど生育がよく、年間2,000時間以上の日照時間が望ましい	問41	1	P42～49	1970年代中頃まで主な採油法であった
問8	3	P12	この戦争によって、北方海域に広大な漁場を獲得し、膨大な量の魚介類の水揚げが可能となった。その魚介類保存、輸送の手段として油漬けの手段がとられ、これに使用するためのオリーブオイルの自給が求められた	問25	3		比較的低温には強く、短時間の場合マイナス10度で寒害が発生する程度である	問42	3		マットなどの資材を使わないので、油が汚染される危険性が低い
問9	1			問26	2	P36	土壌に対する適応性は大きいですが、根の生育には良好な通気性を必要とする	問43	3	P51,52 P73～77	エクストラ・バージン・オリーブオイルは、採油工程において、原料処理や溶剤使用はもちろん、加熱処理など一切おこなっていない。精製オリーブオイルは、酸度が高すぎたり香りや味に欠陥があると、精製して遊離脂肪酸や欠陥を除去する。このような無色・無味・無臭のオイルを精製オリーブオイルと呼ぶ
問10	3	P12	明治40年に農商務省が指定し、翌41年それぞれ1.2haの規模で試験栽培開始	問27	3	P35	花芽分化には気温などの環境が大きく関係する	問44	2	P73	オリーブオイルの成分中約55～83%を占める
問11	2	P60～62	日本へは明治40年、農商務省指定試験開始時にアメリカから導入された	問28	3	P30,31,35	オリーブ樹は、生長が早く、高さは10メートルを超える場合もある	問45	4	P73	バージンオリーブオイルはビタミンEやベータカロテン、ポリフェノール類などの抗酸化物質を豊富に含んでいる
問12	1	P13	香川県農事試験場創設とともに場長に就任	問29	1	P60～62	観賞用樹として最も苗木生産量が多いのが特徴	問46	1	P71	品質の高い順に、エクストラ・バージン・オリーブオイル、バージン・オリーブオイル、オーディナリー・バージン・オリーブオイル、ランパンテ・バージン・オリーブオイルとなる
問13	1	P14.15	これにより、日本における果実加工はようやくその一歩を踏み出した	問30	3		国内オリーブ栽培の果実加工用、油用兼用の最主要品種となっている	問47	1		素晴らしい風味や酸度の低さともに、トップクラスのオリーブオイルである
問14	2	P11,14	福羽逸人は、農学者、園芸家、造園家であり、三田育苗場植物御用苑係、宮中顧問官、宮内省大膳頭などを務める	問31	2		世界中で多く栽培される果実加工用品種。自家不和合性が強いなど弱点があるが栽培は容易	問48	2	P22	①県庁に選ばれる ③島花島木に選ばれる ④小豆島・内海町オリーブ振興特区に認定される
問15	3	P10,15,16	①野呂癸巳次郎 ②三木隼人 ④前田正名	問32	4		含油率は25%程度と非常に高い。一本でも実をつけやすく、耐寒性、耐病性にも優れている	問49	1	P22	1972年「小豆島オリーブを守る会」が結成され、3月15日をオリーブの日と定める
問16	3	P18,22	オリーブが農産物輸入自由化の第1弾に組み込まれた	問33	3	P40	テーブルオリーブ用果実には緑果用と熟果用があるが、香川県においては、緑果用が主体となっている。マンザニコで9月下旬～10月下旬、ミッションで10月上旬～11月中旬が収穫時期となる	問50	3	P82～85	西村地区の森口屋旅館に逗留し、オリーブを描いた
問17	2	P27	昭和39年当時小豆郡内では、106haで栽培されていた	問34	1						